

紙もプラスチックもシール紙も
高精細&高速。1台3役のコンパクトモデル。



COLOR CARD
PRINTER **CX-G2400**

プラスチックカードプリンター・ICカードプリンター・名刺プリンターをお探しの方の課題を解決！
名刺やショップカードなどの紙メディアの美しい印刷に加えて、社員証や証明書カードなど高級感のあるプラスチックカードやICカード、シール紙への印刷もできる1台3役のコンパクトカラーインクジェットプリンター。高精細&高速で、小さなスペースにも設置しやすい専用プリンターです。

名刺	プラスチックカード	ICカード	シール紙	長尺紙
ファーストプリント 7 秒以下	印刷スピード プラスチックカード ICカード 50 枚/分	印刷スピード ICカード 50 枚/分	印刷スピード 長尺紙 25 枚/分	印刷余白 全周: 0.3mm 〔マイクロマージン印刷時〕
				解像度 1200 dpi インクコスト 名刺 約 0.3 円~/枚

名刺などの紙への印刷から
プラスチックカード・ICカード*まで幅広く対応

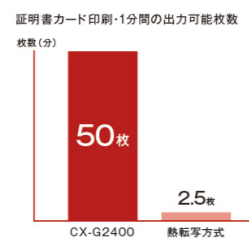
CX-G2400は名刺用紙などに加え、専用のプラスチックカードやICカード*の対応も実現。社員証、資格証や修了証カードといった高級感が求められるカードも、1台で印刷可能です。



*カードプリンター専用プラスチックカード・ICカードのみ印刷可能
市販のPVC、PET-Gなどのカードに印刷できません。

紙もプラスチックもICも、
名刺サイズ50枚/分の高速出力

キヤノン独自の2.1インチライン型プリントヘッドにより、紙とプラスチックの両メディアにおいて、名刺サイズで50枚/分の高速フルカラー出力を実現。一般的なインクジェットプリンターがプリントヘッドを左右に往復させて印刷(シリアル方式)するのに対し、ライン方式では幅の広いプリントヘッドが固定され、用紙だけが動くので、きわめて高速でのプリントが可能です。また、ファーストプリント優先モードで、1枚目をより速く印刷できます。(名刺:7秒以下)



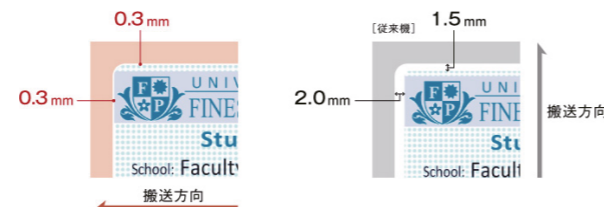
プラスチックカードの作成コストを削減

たとえば、プラスチックカードで社員証(表面カラー、裏面モノクロ印刷)を作成した場合、キヤノンのカードプリンターならインク代、メディア代を合わせて1枚約82円で作成可能。下の表のように、外注した場合はもちろん、一般的なプラスチックカード専用プリンターと比べても、より低コストで作成することができます。

発注枚数	外注	キヤノンカラーカードプリンター	一般的なプラスチックカード専用プリンター(熱転写方式)
10枚	約1,000円/枚	約82円/枚*2 (メディア代約80円*1 +インク代約2円~)	約110円/枚 (メディア代約50円 +インク代約60円)
100枚	約700円/枚		
1,000枚	約110円/枚		

新採用のマイクロマージン技術で
ほぼフチなし印刷を実現

CX-G2400は、印刷時に用紙のフチから0.3mmまで印刷できるマイクロマージン技術を採用。人の目にほぼフチなしと見えるまでの精度の高い印刷を可能にしています。



●Canon、Canonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。●本紙に記載されている会社名、商品名は、一般に各社の登録商標または商標です。●記載の内容は2019年1月現在のものです。●弊社の都合により予告なく変更させていただく場合がありますのでご了承ください。

製品に関する情報はこちらでご確認いただけます。

キヤノン ホームページ
canon.jp/solution

キヤノン 導入事例一覧
canon.jp/solution-case

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6 CANON STOWER

●お求めは信用のある当社で

2019年1月現在

導入事例 学校法人渡辺学園
東京家政大学 様

学内の名刺制作を
請け負う体制の構築により
統一したユニバーシティ・
アイデンティティの発信を実現



Client Profile



私立大学

教職員数:473名

※2018年11月1日現在

所在地 : 板橋キャンパス 東京都板橋区加賀1-18-1

創立 : 明治14年(1881年)

学生数 : 6,852名



現代社会が抱える諸問題の解決を見据え
女性の感性・知性を磨く東京家政大学

幅広く人間生活に関わる基本的問題の解決を課題とする東京家政大学。今まで培ってきた専門分野の知的資源を地域社会に還元するとともに授業だけでは得がたい実践教育を試行すべく設立されたのが、ヒューマンライフ支援センターです。

これまでも教職員の要請に応じて名刺制作を受注してきた同センターでは新たにカードプリンターを導入し、全学的な名刺制作の依頼に対応できる体制を構築。その根底にあったのが、名刺=学園の印象や信頼性につながる重要ツールと位置づけ、デザイン的な統一により、ユニバーシティ・アイデンティティ(以降、UI)やビジュアル・アイデンティティ(以降、VI)を示したいという想いです。

詳しい導入の背景や選定理由などについて、同センターで広報・制作事業部門の担当を務める坂本理恵氏にお話を伺いました。



異なる体裁の名刺が乱用される状況に対し 今後、統一化を図っていく必要性を痛感

間もなく創立140周年を迎える東京家政大学においてこれまで培ってきた知的資源をよりトータルな視点でとらえ、地域社会への貢献を通じて学園にとっても新たな課題発見の機会となっているのが、2002年に設立されたヒューマンライフ支援センター（以降、ヒューリップ）です。導入前の状況について、坂本理恵氏が語ります。

7つの事業を展開するヒューリップでは、広報・制作事業として、学内外からの依頼を受けて、各種ポスターやチラシ、パンフレット、広報誌等の制作を請け負っており、依頼があれば教職員の名刺制作もお手伝いしてきました。

個人個人が自由にロゴなどを改変して名刺を作成

ところが、人によってロゴの色を変えていたり、webから保存した解像度の低いデータを使っていたり、影をつけていたりといったケースを時々目にするようになりました。

名刺といえば学園の顔。ヒューリップとして名刺制作を一手に請け負える体制を整えて、統一したUI、VIを発信していくべきではないかという考えに思い至りました。

名刺制作を一手に請け負える体制づくりが急務に

当時は大量印刷には向かないA3ノビ対応インクジェットプリンターで名刺も作成していたため、特に繁忙期などは給紙ローラーが摩耗して給紙がうまくいかず出力中ずとつききりにならなければいけなかったこともありました。ポスターなど本来インクジェットで出力すべきツールをしっかりと出力するためにも、名刺については早急に他の手段を考えなければならなかったのです。



ヒューマンライフ支援センター
広報・制作事業部門 坂本理恵氏

Excelの一覧データを読み込むだけで容易に名刺の作成が可能

続いて、選定理由について語ります。

試行錯誤の末にたどり着いた、カードプリンターという選択肢

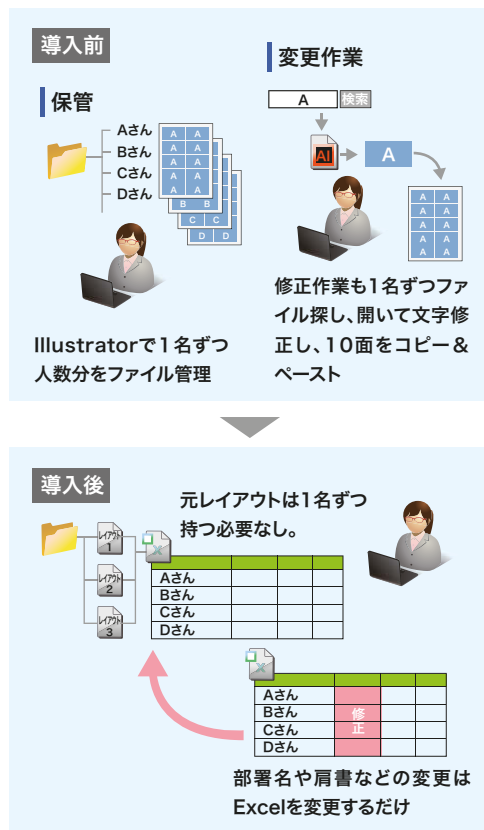
「最初はヒューリップが窓口となり学園内に入出入りしている業者さんなどへの外注も考えましたが、当然、納品までにある程度日数が必要ですし、今までは申し込み用紙と名刺の用紙を持参するだけで制作していたので教職員の方々にとっては手間とコストの負担も増えてしまいます。そこで、簡単に低コストで名刺を作成できる方法を探してたどり着いたのが、カードプリンターです。キヤノンMJにはWebで直接問い合わせをしました」

選定するにあたって、私たちが特に気にしたのが編集の問題です。

従来は個々のデータをIllustratorで作成していましたが、部署異動や新任の先生方が来る繁忙期になると、とても一人では作業が回らず、数人で作ると今度はデータの共有という面で難しさを感じていました。

Excelデータを読み込むだけの簡単さが決め手に

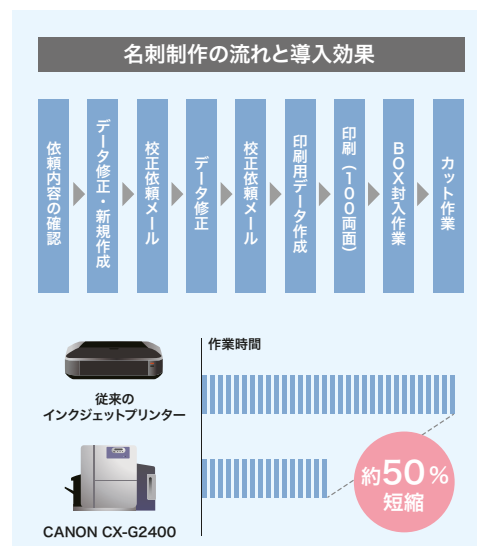
その点、キヤノンのカードプリンターのオプションで用意されている名刺・カードデザインソフトの「イメージクリエイトSE」はExcelの一覧データを読み込むだけで簡単に名刺を作成できます。キヤノンMJに名刺の刷り上がりのサンプルを送ってもらうよう依頼をしつつ、キヤノンショールームに足を運び、実際に作成から印刷までの作業を見せてもらいましたが、あまりの容易さに、これしかないと思いました。



レイアウトから印刷まで 効率よくスピーディーに作業できる

1つのファイルを開けば、全員のデータを修正可能

「Illustratorの場合は修正作業の時も1個1個データを開かなければなりませんでした。イメージクリエイトSEならレイアウトファイルを1つ開けば複数の方のデータをExcelで一度に修正できますし、そういう面でも効率が良くなったように思います。また、印刷時間についても大きく短縮することができました。従来は100枚印刷するのに、片面10分、裏返して10分、印刷だけで20分くらいかかっていたのが、今は1分で50枚くらいできるので、両面で5分もかかりません。学園内の反応、影響力についても、「今までは知っている人だけが頼めるという状況だったのに対し、今回改めて名刺作成の受注とその意図についてもきちんと教職員全体に周知したところ、UIやVIの考え方に賛同する教職員の方々から制作依頼が続々と届いています。新しい名刺はどれも学園のマークがきちんと入っており、1枚1枚、広報的役割を果たしています」と語ってくれました。



さらなるバージョンアップにも期待しつつ 最適なオペレーションを模索していきたい

最後に、製品へのご要望や今後の展望について伺いました。「要望としては、まず自動で両面印刷ができるようになると便利だと思いますし、今後の製品改良に期待したいです。あとMac用のプリンタードライバーがほしいですね。イメージクリエイトSEを使えば誰でも簡単に名刺をつくれますが、中にはより細かい対応をしなければならない場合などIllustratorを使用して作成する場合もあるのでMacのプリンタードライバーは早急につくっていただきたいです。また、名刺の依頼を受けた教職員の方に校正を出す際、今はスクリーンショットをメール添付しているのですが、ボタン一つで校正用のPDFができるとより効率的になると思います。

担当者が変わっても自在に使いこなせるよう、マニュアル制作が進行中

今後の展望としては、現在、誰でも使いこなせるようにマニュアル化を進めています。それと、現在のフォーマットでは対応できない要望もあるため、より汎用性の高いデザインにしていきたいと思っています」。

